

はじめに

今年度、本校では、学校評価を年5回実施しました。1回目と2回目は、中間期である9月下旬に実施した、児童アンケートと教員アンケートであり、3,4,5回目は、年度末に実施した児童アンケート、教員アンケート及び保護者アンケートです。今年度も昨年度から続くコロナ禍の中の1年となり、学校教育活動も計画通りとはいきませんでした。昨年度は実施できなかった中間期のアンケートも実施し、期末の結果と比較できるようにしました。

今年度も昨年同様、児童、教員、保護者の比較がしやすいように、3者とも4件法で実施しました。児童アンケートと教員アンケートは、Google フォームを利用してアンケートを行い、保護者アンケートは、従来通り、アンケート用紙を配布、回収して行いました。

学校評価の報告は、主に年度末期に行った3つのアンケートを総合して行っていますが、中間期との経過比較も含めて報告したいと思います。

各アンケートについての考察

【児童アンケート】

児童アンケートは、「学習」「生活」「健康・安全」「学校」の4つの領域について質問しました。回答欄を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の4件法で行いました。

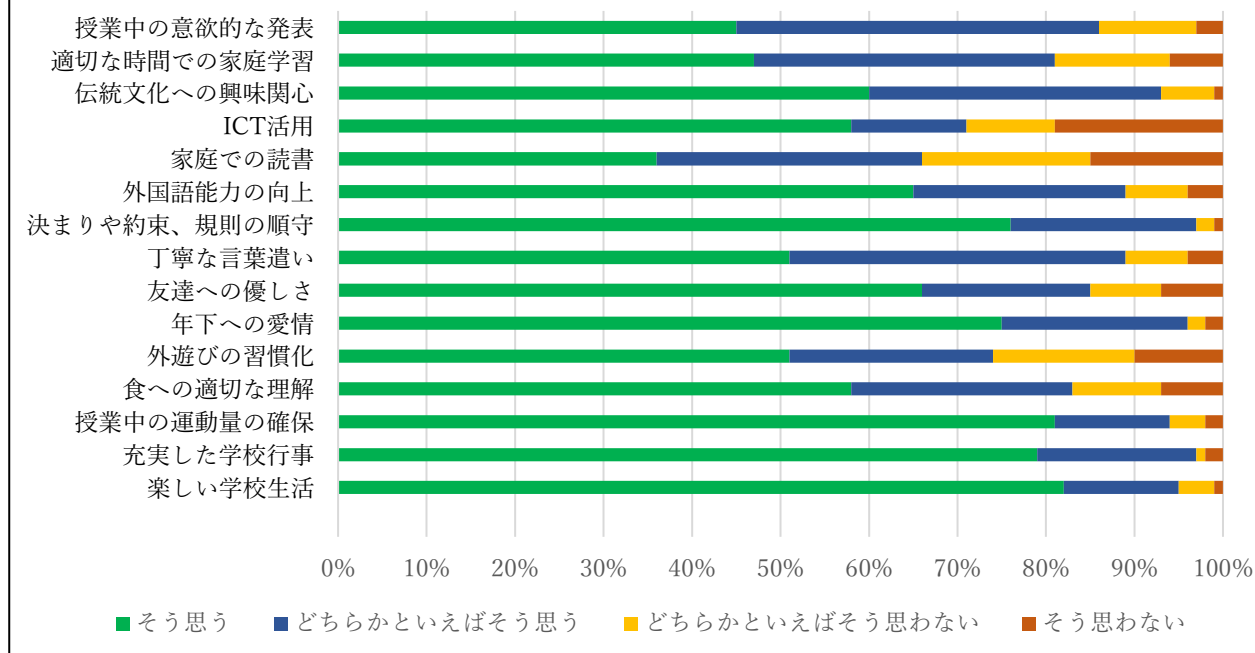
R3 年期末 児童アンケート集計 (%)

		項目	肯定的意見(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-①	授業中の意欲的な発表	96	94	68	93	100	65	86
	1-②	適切な時間での家庭学習	93	89	59	93	78	78	81
	1-③	伝統文化への興味関心	93	100	82	97	100	89	93
	1-④	ICT 活用	69	95	50	84	62	62	71
	1-⑤	家庭での読書	58	72	46	78	83	62	66
	1-⑥	外国語能力の向上	73	100	87	94	100	88	89
生活	2-①	決まりや約束、規則の順守	92	100	95	100	100	96	97
	2-②	丁寧な言葉遣い	72	100	81	97	100	92	89
	2-③	友達への優しさ	76	89	86	94	95	77	85
	2-④	年下への愛情	88	100	95	97	100	96	96
安健康	3-①	外遊びの習慣化	84	100	64	78	67	54	74
	3-②	食への適切な理解	92	89	64	85	84	85	83
	3-③	授業中の運動量の確保	96	100	91	97	94	88	94
学校	4-①	充実した学校行事	92	100	91	100	100	100	97
	4-②	楽しい学校生活	100	94	95	100	100	81	95

肯定的意見の割合が90~100

肯定的意見の割合が80以上

R3年度末 児童アンケート(全校)



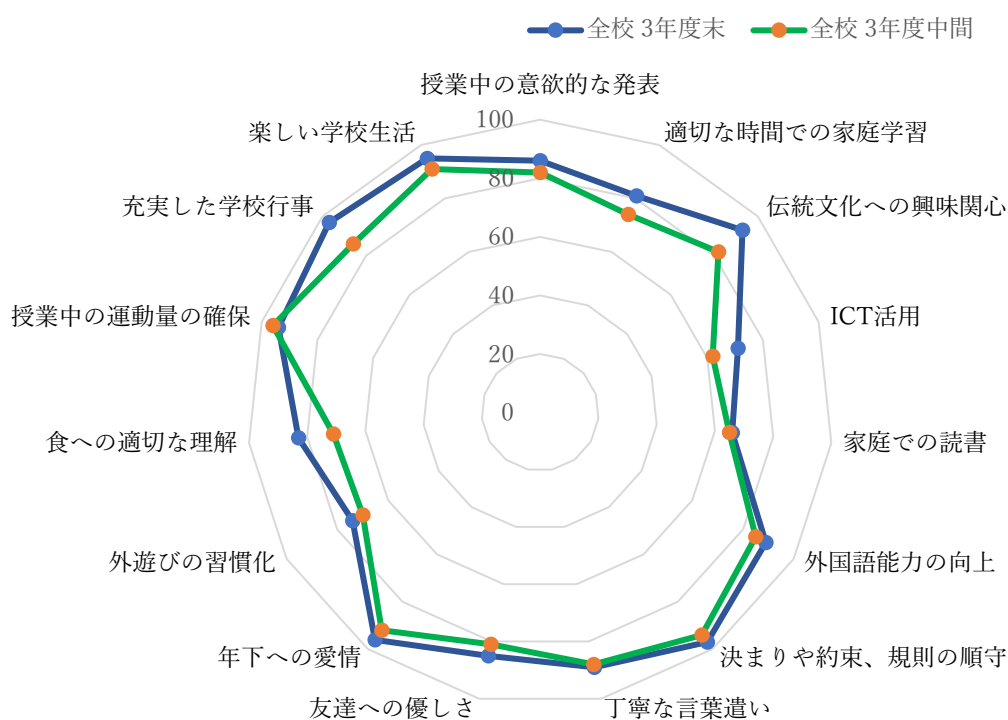
児童アンケートの集計結果を見ると、全校においては、肯定的評価が15項目中12項目で80ポイントを超えており、児童らは、各項目において概ね肯定的な評価をしていることが分かりました。特に生活面においては、4項目すべてが85ポイント以上で、高い評価です。また、充実した学校行事、楽しい学校生活においては、95ポイント以上という高評価であり、昨年度に引き続き、コロナ禍の中でも、工夫した行事の計画、実施が、子どもたちに安心感や充実感を与えているのだと実感しました。何より楽しい学校生活を送れていると回答した児童が数多くいることがよかったと思います。

ただ、気になる点もあります。一つ目は、肯定が71%にとどまった「ICT活用」についてです。昨年度末よりスタートした文部科学省のGIGAスクール構想における児童一人一台のタブレット端末(chromebook)を活用した授業が本格的に始まり、どの学年も授業で毎日のように活用するようになった結果、特に高学年において、得意な子とそうでない子の差が大きくなっているように感じます。また、新型コロナウイルス感染症拡大により9月の午後の授業がオンラインになった事も影響していると考えられます。通信環境の問題等からうまくつながらなかった場合もあり、オンライン授業の難しさを教師だけでなく、子どもたちもより強く感じたのかも知れません。今後もICTを活用した授業の研修や情報交換を教師間で行って、よりよい授業づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

二つ目は、「家庭での読書」です。こちらも3つの学年で70ポイントを下回っています。これは、本校の課題として、一昨年度、昨年度も挙がっていたものです。昨年度は全校の肯定意見が40ポイントととても低かったのですが、今年度は20ポイント以上上昇しています。それでもまだまだ他の項目に比較して低いので、児童はもちろん、家庭への働きかけも今後も継続して行う必要があると考えます。

三つ目は、「外遊びの習慣化」です。こちらも本校の課題の一つです。高学年になるにつれ、委員会活動、係活動等、休み時間にしなければならない活動が増え、外で体を動かす機会が減っている様子がうかがえます。コロナ禍も影響しているとも考えられますが、学校では、これらの事態の改善のために、「うきうきタイム」「ミニうきうきタイム」(全校外遊び)等の実施に加えて、クラス単位での遊びの実施など、更に工夫を重ねていく必要があると思ひます。

R3年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較



上のグラフは児童アンケートの肯定評価について、中間期と年度末で経過比較したものです。両時期のアンケートを比較してみると、分布形態に大きな変化は見られませんが、ほぼ、全ての項目で年度末が中間期を上回っていることが分かります。

全ての項目で年度末のポイントが増加したことはとてもうれしいことです。学校教育活動全般において、教師の努力が少しずつ実を結びつつあると言えます。特に「適切な時間での家庭学習」「伝統文化への興味関心」「ICT活用」「食への適切な理解」「充実した学校行事」等で、肯定的意見が増加しています。「適切な時間での家庭学習」では、中学校の定期テスト期間に合わせた本校独自の取り組みである「トライウィーク」やタブレット端末を使ったロイロノートを活用しての宿題等、子どもたちがしっかり家庭学習に取り組むための工夫についてその成果が出ているものと考えられます。「伝統文化への興味関心」では、これまで数年間に渡って継続して行ってきた「茶道作法教室」の取り組みの成果が表れていると考えられます。次年度以降も校区の文化を理解する取り組みとして実施していきたいと思えます。そして、中間期より大きくポイントが増加したのが、「充実した学校行事」です。コロナ禍の中、年度当初に計画した行事が全て予定通りという訳にはいきませんでした。中間期以降、「運動会」「修学旅行」「野外活動」「社会見学」「かけ足収め会」「音楽発表会」等、方法や内容、日程等を工夫しながら、ほとんどの行事を予定通り行うことができました。それに伴い肯定割合も増えたものと考えられます。

来年度も今年度の結果を元にそれをよくするための取り組みが必要になると思えます。

【保護者アンケート】

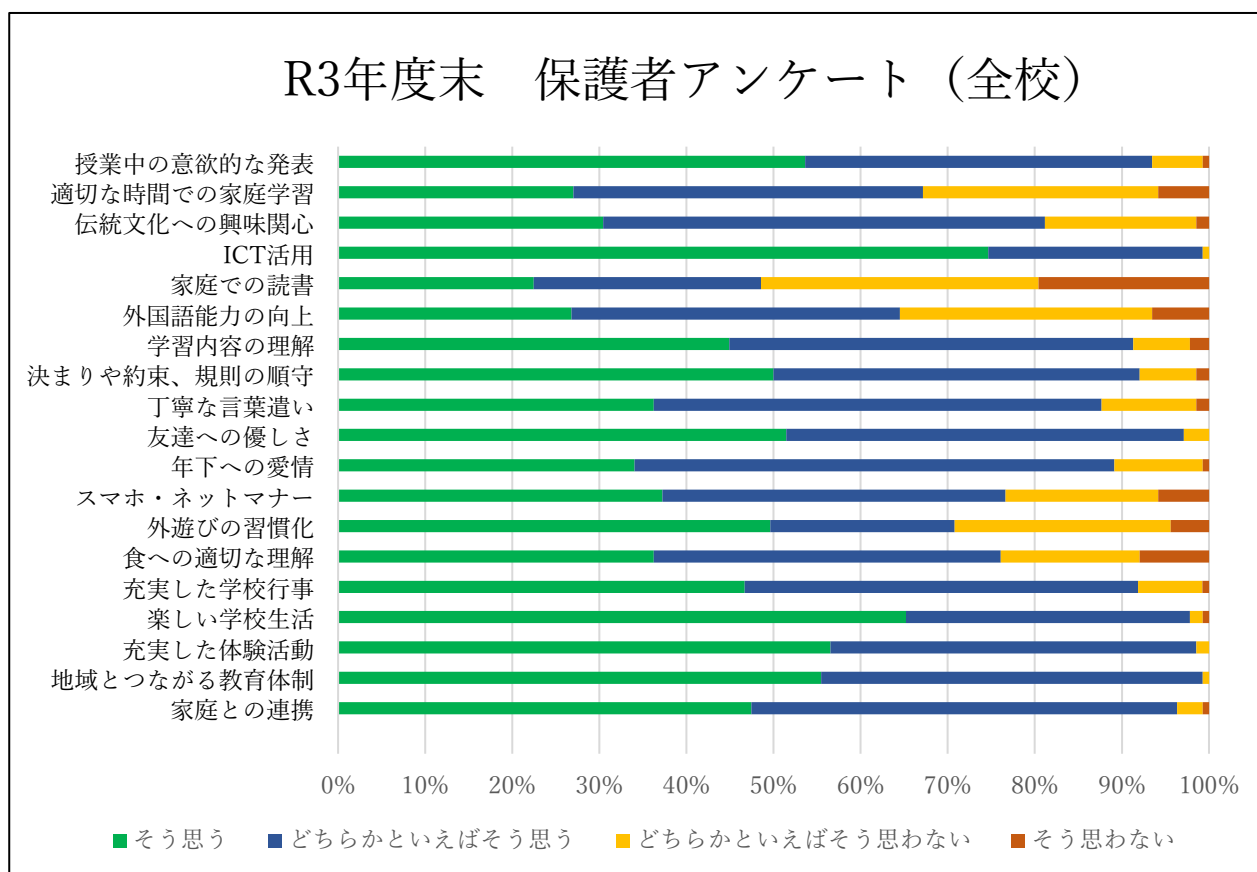
保護者アンケートも、児童アンケートと同じ「学習」「生活」「健康・安全」「学校」の4つの領域について質問し、回答も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の4件法で行いました。

R3 年度末 保護者アンケート集計 (%)

	項目	肯定的意見 (%)						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-① 授業中の意欲的な発表	93	94	96	93	100	88	93
	1-② 適切な時間での家庭学習	67	67	65	64	82	63	67
	1-③ 伝統文化への興味関心	74	67	92	86	82	83	81
	1-④ ICT活用	100	100	100	100	100	96	99
	1-⑤ 家庭での読書	44	39	42	54	59	54	49
	1-⑥ 外国語能力の向上	48	67	67	71	82	58	64
	1-⑦ 学習内容の理解	89	94	96	89	88	92	91
生活	2-① 決まりや約束、規則の順守	81	89	96	93	100	96	92
	2-② 丁寧な言葉遣い	78	94	96	86	94	83	88
	2-③ 友達への優しさ	96	89	100	100	100	96	97
	2-④ 年下への愛情	74	94	100	89	94	88	89
	2-⑤ スマホ・ネットマナー	59	83	79	82	81	79	77
安健康	3-① 外遊びの習慣化	69	83	75	71	76	54	71
	3-② 食への適切な理解	70	78	79	75	76	79	76
学校	4-① 充実した学校行事	93	75	96	96	94	92	92
	4-② 楽しい学校生活	96	100	96	100	100	96	98
	4-③ 充実した体験活動	93	100	100	100	100	100	99
	4-④ 地域とつながる教育体制	96	100	100	100	100	100	99
	4-⑤ 家庭との連携	89	100	100	100	94	96	96

肯定的意見の割合が 90~100
 肯定的意見の割合が 80 以上

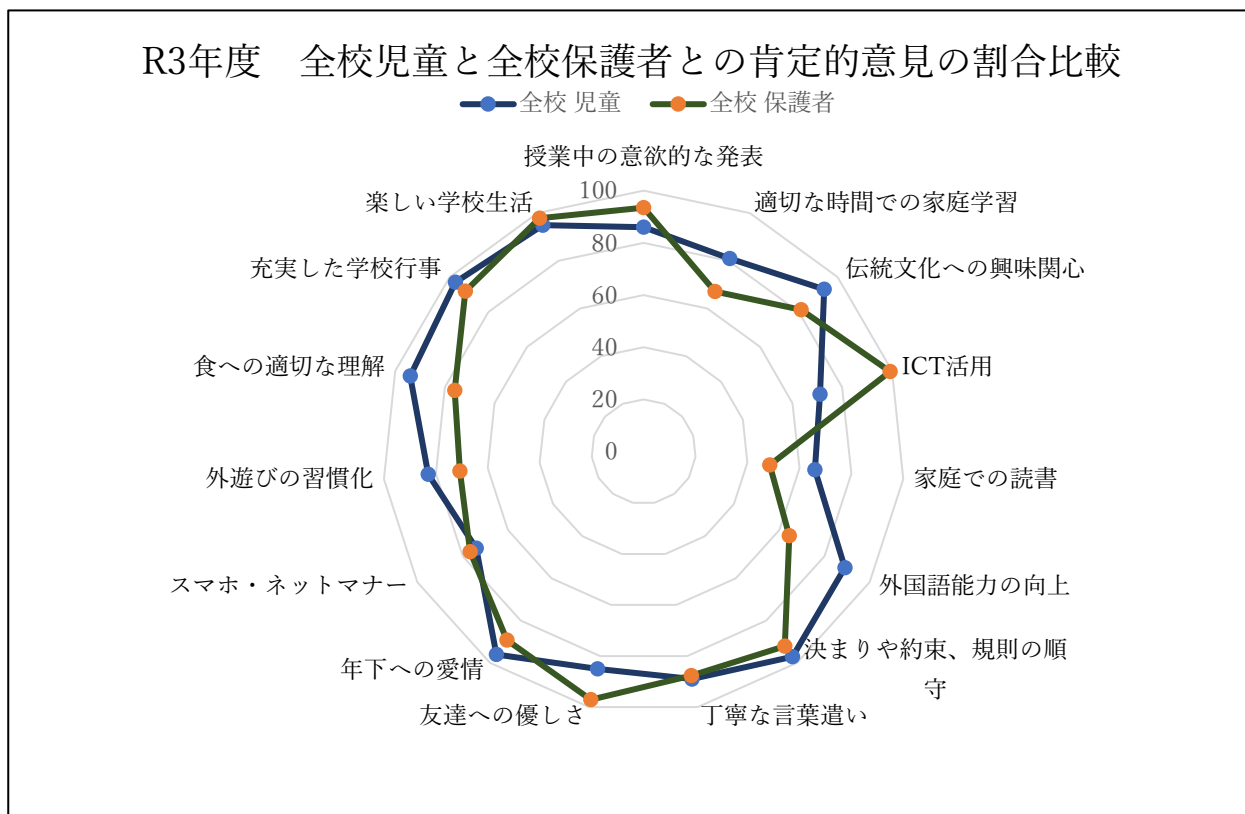
R3年度末 保護者アンケート (全校)



保護者アンケートの集計結果について見ると、生活面では、学年によって差はあるものの学校全体では「スマホ・ネットマナー」を除く4項目が、80ポイント以上の肯定意見で、児童のアンケート結果同様、高い評価でした。「スマホ・ネットマナー」は、今後もICT機器の活用が進められることから、学校でもルールやマナーの指導をより一層推進していく必要があると思います。

また、「学校」に関する5つの項目については、全て、90ポイント以上の肯定意見で、こちらも高評価でした。昨年度から続く、コロナ禍により、保護者にとっても例年とは違った1年になったと思いますが、学校全体に関わる5つの項目全てで、高い評価になったことは、学校の教育活動が保護者に理解されている証だと考えます。

反面、低い評価の項目もあります。「適切な時間での家庭学習」、「外国語能力の向上」、「家庭での読書」が70ポイントを下回っています。その中でも「家庭での読書」が最も低く、全体で49ポイントしかありません。昨年より9ポイント上昇したとはいえ、依然低い状態で、今後の大きな課題です。本校では、教育活動の重点課題として「豊かな心を育む読書活動の充実」を掲げ、学校司書や読書ボランティアによる読み聞かせ活動や図書館司書によるお話し会の実施などの取り組みを今年度も行いましたが、なかなか家庭での読書習慣が身に付いていないと感じる保護者が多い現状が続いていることが分かります。今後も学級懇談会、個人懇談、学級通信を通して、本に親しむことが論理的な思考を育んだり、深く物事を追及したりする力を培ったりすることを保護者に伝えていきたいと考えます。

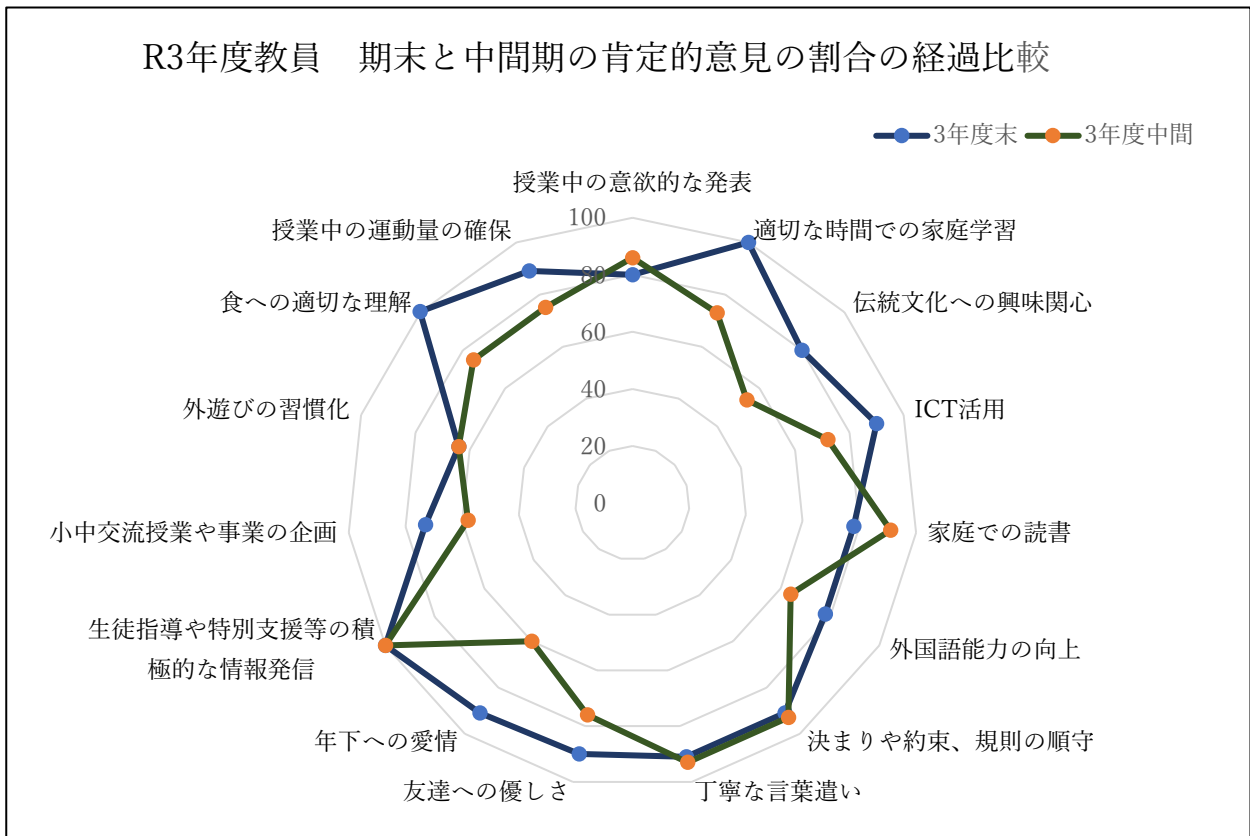
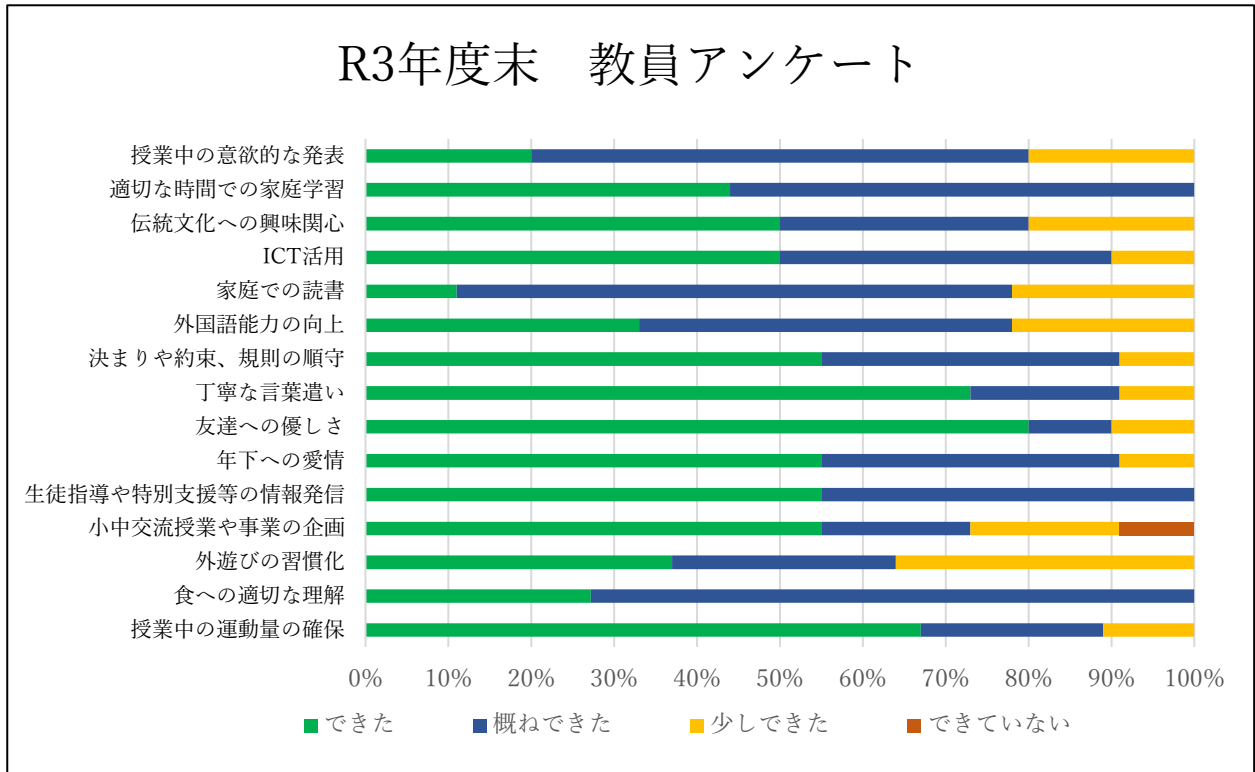


上のグラフは、児童と保護者の肯定的意見を比較したのですが、児童に比べてかなり評価の高いものとして、「ICT活用」が挙げられます。保護者は、オンライン授業などを通して児童のICT活用の力が高くなったと評価していることがうかがえます。

逆に低いものとして、先の3項目に加えて、「伝統文化の興味関心」「食への適切な理解」等が挙げられます。立場による認識の違いが、評価の違いとなって表れたものだと思いますが、いろいろな機会を通して、保護者に発信したり啓発を行ったりする必要性を改めて感じるとともに、肯定意見が増えるように学校としても努力を続けていきたいと思えます。

【教員アンケート】

教員アンケートは、「学習」「生活」「健康・安全」の3つの領域について質問しました。児童アンケート、保護者アンケートとの比較をするため、教員アンケートも4件法で実施しています。



教員アンケートの結果をしてみると、昨年同様、生活に関する項目で肯定的意見が多く、児童の学校生活に関しては、高い評価をしていることが分かります。また、学習面においても4項目で80ポイントを超えていて、それなりの手ごたえを感じていることが分かります。

その反面、肯定的意見が、70ポイントを下回ったものとして、「外遊びの習慣化」が挙げられます。児童のアンケート同様、コロナ禍の影響もあり、外で遊ぶ子が少なくなったということを教員も感じていることが結果から読み取れます。次年度に向けて改善を図っていきたい課題の一つです。

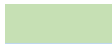


また、「小中交流授業や事業の企画」については、今年度は肯定意見が70ポイントを超えました。昨年はこの項目が低く、55ポイントしかなかったのに比べると、少し評価が上がりました。本校では、小中一貫教育校という特徴を生かして、主に高学年で中学校教員による各教科における乗り入れ授業の実施をしたり、入学式や運動会などの行事を小中合同で行ったりしています。今後も小中一貫校としての取り組みを進めていければと思います。

次に中間期と期末の肯定的意見の割合を比較してみると、ほとんどの項目で期末アンケートの方が肯定的意見の割合が増えています。児童のアンケートでもこの傾向が見られましたが、これはうれしいことです。教員が、自身の教育活動をきちんと振り返り、自己評価しながら、次に活かすべく改善を試みた結果の表れと見ることができると思います。

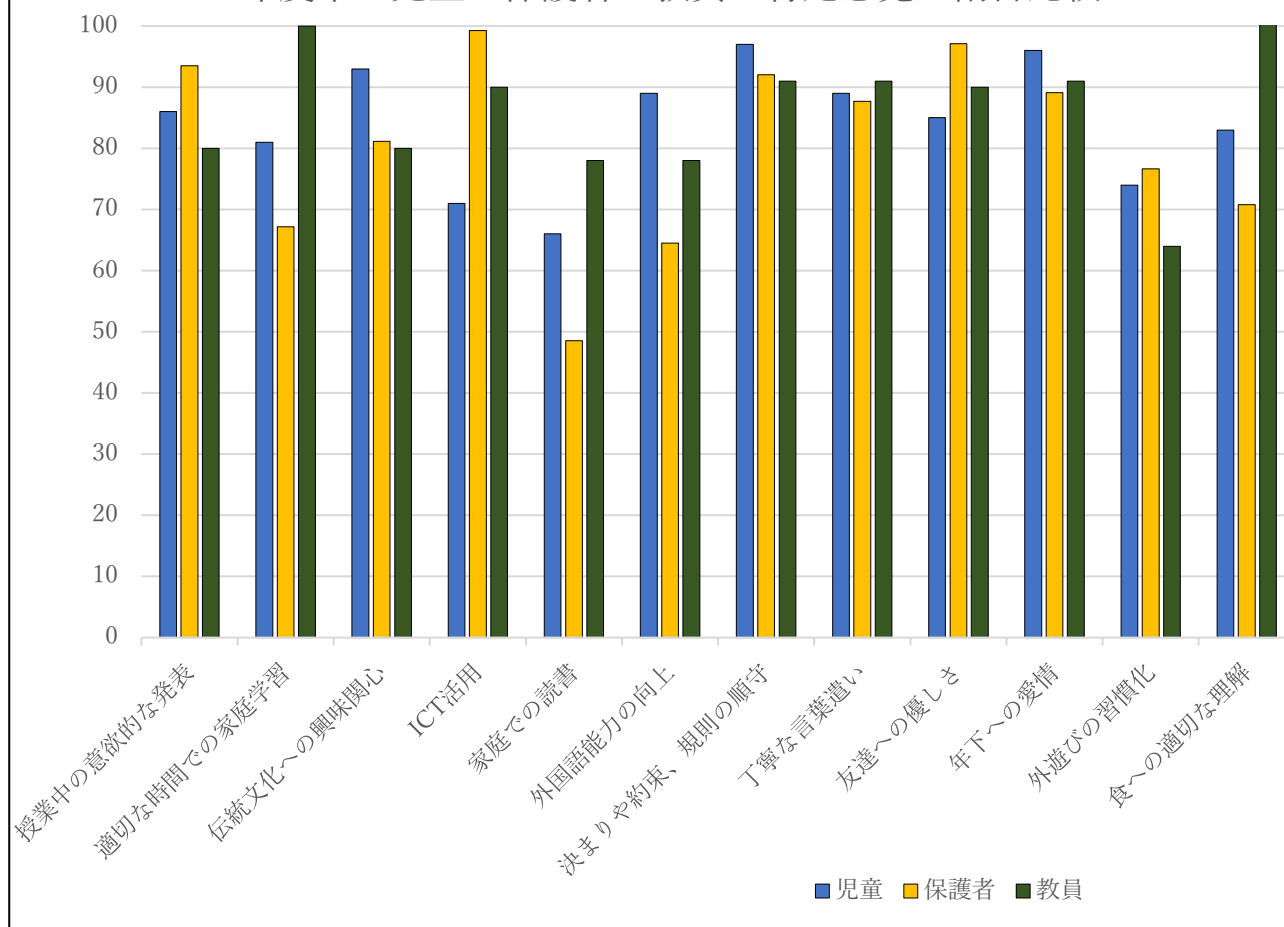
【各アンケートの相互比較】

R3 年度末 児童・保護者・教員アンケート集計結果相互比較 %

	番号	項目	児童	保護者	教員
学習	1-①	授業中の意欲的な発表	86	93	80
	1-②	適切な時間での家庭学習	81	67	100
	1-③	伝統文化への興味関心	93	81	80
	1-④	ICT活用	71	99	90
	1-⑤	家庭での読書	66	49	78
	1-⑥	外国語能力の向上	89	64	78
生活	2-①	決まりや約束、規則の順守	97	92	91
	2-②	丁寧な言葉遣い	89	88	91
	2-③	友達への優しさ	85	97	90
	2-④	年下への愛情	96	89	91
安健全康	3-①	外遊びの習慣化	74	77	64
	3-②	食への適切な理解	83	71	100
	3-③	授業中の運動量の確保	94		89
学校	4-①	充実した学校行事	97	92	
	4-②	楽しい学校生活	95	98	
	4-③	充実した体験活動		99	
	4-④	地域とつながる教育体制		99	
	4-⑤	家庭との連携		96	
その他		生徒指導や特別支援等の積極的な情報発信			100
		小中交流授業や事業の企画			73
		学習内容の理解		91	
		情報機器についてのマナーとモラル意識		77	

 肯定的意見の割合が90以上
 肯定的意見の割合が80～90
 肯定的意見の割合が70以下

R3年度末 児童・保護者・教員の肯定意見の割合比較



最後に、児童・保護者・教員のそれぞれのアンケートの集計結果を相互比較します。上のグラフは、それぞれのアンケート項目の肯定評価の割合を表しています。それぞれのアンケートを比較して20ポイント以上の開きがあった項目は、「適切な時間での家庭学習」、「ICT活用」、「家庭での読書」「外国語能力の向上」の4項目でした。

まず、「適切な時間での家庭学習」については、教員の肯定的意見の割合に対して、保護者の肯定的意見の割合が低くなっています。教員としては適切な課題等を与えて、家庭での学習がある程度できていると思っているが、保護者は、そう思っていないということで、個人懇談や学級懇談会等を通して、課題の出し方や家庭での学習方法について、保護者と話し合い、家庭学習について考えるきっかけにしたいと思います。

2つ目の「外国語能力の向上について」は、児童と保護者の間で大きな開きがあります。こちら、昨年度から外国語活動が高学年で教科化され、通知表に成績がつくようになったこともあり、個人懇談等を通して学習内容や授業の様子を保護者にしっかり伝えていく必要があると思います。

3つ目の「ICT活用」については、保護者、教員よりも児童の肯定的割合が低くなっています。ICT機器を使った授業については、子どもたちも意欲的に取り組んでくれているのですが、大人が思うよりも子どもたちがタブレット端末などのICT機器の活用について難しく感じていることが分かります。ICT機器の活用機会がますます増えていく次年度以降、苦手な子にも分かりやすく丁寧な授業を心がけていく必要があると考えます。

4つ目の「家庭での読書」は、3者ともに低い評価ですが、保護者の肯定的評価が49ポイントと最も低く、今後しっかり取り組んでいく必要のある大きな課題だと言えます。学校でもしっかり取り組み、

さらに家庭への啓発や情報発信の在り方も考えていく必要があると思います。

3者ともにあまり差がなく、高い評価だったものは「決まりや約束、規則の順守」「友達への優しさ」等、生活面の項目が挙げられます。これは昨年度も高い評価でした。学校生活に関わる項目が高評価なのは、児童にとって学校が安心できる場であるという一つの証で、教育活動を実践している教員にとってもうれしいことです。次年度以降も高い評価が続くよう頑張っていきたいと思います。

児童・保護者・教員のアンケートは、評価項目がすべて同じというわけではなく、共通している項目と独自の項目とが存在しています。保護者アンケートの独自項目は、「充実した体験活動」「地域とつながる教育体制」「家庭との連携」「学習内容の理解」「ICT 機器についてのマナーとモラル意識」の5つですが、この内、前の4項目は、いずれも90ポイント以上であり、それぞれについて保護者は高く評価しているということが分かりました。これらについてこういった評価が得られたことは、教育活動を実践している教員にとっても有難いことです。この結果は、勿論、教員の教育活動実践がうまく機能したということだと思いますが、これらの取り組みについての情報発信も合わせて次年度への励みとしたいと思います。

教員アンケートの独自項目である「小中交流授業や事業の企画」については、今後も9年間の教育課程を推進するための取り組みについて、その方法や内容について考えていく必要があると改めて感じています。

終わりに

今年度は、学校評価のために、中間期、年度末に児童アンケート、教員アンケートを1回ずつ、年度末に保護者アンケートを1回、計5回のアンケートを実施しました。それぞれのアンケート結果を見ると、細かな違いはあるものの多くの項目で、児童、保護者、教員の三者が揃って80ポイント以上の肯定評価をしていることより、本校の教育活動全般においては、教育目標が概ね達成できていると評価できます。

本校のグランドデザインは、本校の児童が抱える課題や奈良県の教育課題、生駒市の教育方針や地域の方の願いを踏まえた上で設定されています。今回の学校評価は、このグランドデザインを基に作成したアンケートを実施することにより評価しましたが、アンケートにおいてある一定の評価を得られたことで、本校のグランドデザインの適正も認められたと考えます。

しかし、まだまだ改善の余地がある項目も少なくありません。今回の学校評価を基に改善が必要な点については、問題の原因がどこにあるのか、また改善のためには何が必要なのかをしっかりと検証した上、課題を職員間で確実に共有して、次年度の教育活動に備えたいと思います。